

たのの



TANO HOSPITAL
田野病院

〒781-6410 高知県安芸郡田野町1414-1
TEL 0887-38-7111(代) FAX 0887-38-5568

発行人　臼井　隆
(題字　安岡　寧水)

TANO HOSPITAL ホームページ <http://www.usui-kai.com/> E-Mail:info@usui-kai.com



富士山（静岡県三島市） 撮影者：岡崎 裕行 様

CONTENTS ページ

■新年おめでとうございます	1
■新年のご挨拶	2
■救急医療研修会	3
■全国学術研修大会in沖縄に参加して	3
■第15回日本通所ケア研究大会	3
■特集 認知症について	4
■超音波検査の指導で土居忠文技師が着任されました	5
■病気のはなし	5
■新薬情報	5
■楽楽けんこう隊	6
■たのしい保育園にサンタさんがやってきたよ	7
■田野病院忘年会	7
■平成28年医療安全セミナー	8
■平成28年度院内感染セミナー	8
■接遇セミナー	8
■訪問看護と多職種連携について	8
■介護事業部だより	9
■リレーエッセイ	10
■おもちの鶏そぼろあんかけ	10
■新人紹介	10
■結婚しました	10
■編集後記	10

新年おめでとうございます

～ 2017酉年を羽ばたこう～

院長　臼井　隆

今年は酉年にちなんで、大き
く羽ばたきたいと考えているが、
難しそうだ、せいぜい鶏ぐらい
かな、羽ばたいて飛び上がるこ
とは出来るが、空高くとは行か
ない。しっかり地に足を着いて
時々小さく飛び上がることが良
いのかもしれません。昨年末の、
とある週末の私の日常行動を紹
介して見ます。そこから私は新
年の羽ばたき方、処し方を考え
ました。土曜日..天気は良好、
昨日の大学関連の忘年会で、飲
み過ぎと寝不足で身体が少しだ
るい。病棟で入院患者の創処置、
そして関節腔注射、病棟指示を
済ませて、総合診療外来を担当
している医師（関西から来院）
に会って話をした。土曜日なの
で、外来は総合診療外来と耳鼻
咽喉科、小児科、リハビリ外来
の4人が担当している。今日夕
方5時半から明日昼12時半まで
は県外（関東）から初めて当院
に来る当直医に夕方事務長が会っ
て話しをすることになっている。
午後には、送られてきたばかり

の岡山大学医学部第一外科教室
開講記念会会員名簿に目を通し
た。昨夜の忘年会で先輩の先生
が、第一外科会員名簿の自分の
名前がだいぶ前のページに載る
ようになつたが先生もそうじゃ
ないと言われたのを思い出した。
確かに、929人の名簿の25
5人目、先輩の先生は156人
目に名前を連ねている。故人録
には482人の名前があつた。
そしてレセプトの確認、各種委
員会報告、議事録の確認、押印、
高知県医師会報と高知県感染症
発生動向調査（週報）に目を通
した。平成28年度高知県災害医
療対策本部会議医薬品部会第2
回の日程調整に記入しFAX。
引き出しの整理、本棚の整理。
日曜日..昨日と打って変わつて
雨、テレビの日曜討論、将棋対
局を見て、県外から来ている医
師に挨拶、午後は大学からの当
直医に交代、2時頃には大山岬
のそば処（大山）で、定番のざ
る蕎麦とおむすびの昼食、コン
ビニで買い物、夜は高知市内で
職員の勧誘を兼ねた会食。少し
ゆっくり出来た週末でした。

新年あけましておめでとうございます。

本年も田野病院をよろしくお願ひ致します。

新年 雜感



副院長兼小児科部長 島崎 洋成

新年 あけましておめでとうございます。昨年春には熊本地震で九州は大きな被害を受けました。当初マグニチュード6.5の大地震が本震と考えられていた後にマグニチュード7.3の地震が発生し、こちらが本震で前者が前震との見解で当初の気象庁の想定を覆す結果となった自然災害でした。自然はわからないものです。また世界的には秋に行われたアメリカ大統領選挙で、これまたメディアの予想を覆す結果でトランプ氏が当選しました。グローバルの時代へと言われ情報も多様化し経済も自由競争を促すなか、貧富の差の拡大など負の面も現れ不確実な時代が見えてきた気がします。そんななか展望が不確かなら、今一度、いろんな面で足元もしっかり見つめることも大事かなと思いますが、皆さんいかがですか？足元大丈夫ですか？くれぐれも転んで怪我しないように注意してください。

まあ、堅い話もすこしで、来年は酉年です。とりでも鶏を指しているようで今年は羽ばたく年にしたいと言いたいところですが、鶏では飛べませんよね。けれど気持ちはそういう事で。酉には果実が極限まで熟した状態と言う意味があるようです。今年がいろんな意味で熟した良い結果が皆様にあればと願っています。

患者様・御家族の皆様に安心して頂ける様、心のこもっ



外来・中材手術部／看護副師長
小林 沙織

患者様が住みなれた地域で
その人らしく暮らせるよう、
入院中から視野に入れスタッ
フと共に支援していきます。



回復期リハビリ
テーション病棟/
看護師長
平井 三栄子

急性期病棟の役割を理解し、
チームワークを大切に、安心・
安全な医療が提供できるよう
研鑽します。



西病棟／
看護師長
岡本 直樹

地域医療・介護の充実発展
のため、「共生」を胸に刻み、
ゆきどいた病院・事業所を
目指して励みます。



経営企画部長
安岡 将一

た看護を提供出来る外来を
指して頑張っていきます。

直接関わる機会は少ないので
診断や治療が受けられるよう、
正確な検査データを提供して
いきます。



臨床検査部／
主任
池地 世起

『ここでリハビリして良かっ
た』そんな声がたくさん頂け
るようにスタッフ一同頑張り
ますのでよろしくお願ひしま
す。



リハビリテーショ
ン部／部長
細田 隆之

副作用情報の提供により、
より良い薬物療法のサポート
ができるようがんばります。



薬剤部／部長
公文 桂

患者様に楽しみにしていた
だけるような、おいしい食事
をスタッフ全員で心をこめて
提供いたします。



栄養部／主任
鈴木 道代

あっという間に1年が過ぎ、
私も人生半世紀が過ぎました。



通所リハビリテー
ションたの／副主
任
松岡 和彦

ケアマネジャー一同、研鑽
に励み、より質の高いケアマ
ネジメントの提供に努めてま
ります。



居宅介護支援事業
所／介護支援専門
員／主任
松本 真由美

患者様に分かり易い説明を
し、安心して検査を受けて頂
けるような対応を心がけ、笑
顔を忘れず頑張っていきます。



放射線部／
主任代理
中石 宇俊



今年もご利用者様お一人お一人が住み慣れたご自宅で、思い描く生活ができるように支援します。



ヘルパーステーションたの／主任
高松 ひとみ

在宅生活の課題が少しでも改善できるように、自立支援に向けてスタッフ全員で頑張っていきます。



デイサービスたの・ショートステイたの／主任
清岡 亜美

地域の皆様が、御自宅で、健康に、自分らしい生活を送れることを支援できるように頑張ります。



訪問リハビリテーションたの／サービス提供責任者
池内 昭友

皆様の笑顔が見られますよう、今年も頑張ります。



救急医療研修会

平成28年11月25日

講師：小児科部長 白井 大介
『CPA症例・睡眠時無呼吸症候群』

今年は更に繋ぎりを大切に。人と地域と繋がって、患者様やご家族の気持ちの一歩が踏み出せる支援を目指します。



医療相談室／主任
今井 恵美

笑顔で親切な対応を心がけ、迅速に正確な業務が出来るよう努めます。



経営企画部医事課／課長
佐古 拓斗



全国学術研修大会in沖縄に参加して

10月7、8日に全国学術研修大会に参加してきました。今回は沖縄で開催され、全国からたくさんの理学療法士が参加していました。学術研修大会は症例発表がなく、講義がメインとなっています。各会場に分かれて自分の興味のある分野の講義を聴講しました。私は、脳血管障害の理学療法・疼痛に関連する講義を主に聴講してきました。ニューロリハで有名な森岡周先生や、吉尾雅春先生、松原貴子先生など有名な講師陣の講義を聴講でき、有意義な時間でした。また、展示ブースでは最新の物療機器や、治療器具、羽毛布団の展示があり体験もしてきました。沖縄ということで夜は沖縄料理を堪能してきました！会場前には海岸だったので少し見てみると10月でも海水浴をしている人で賑わっていました。さすが沖縄！来年は石川県で開催されます。全国レベルでの治療の最前線に関する知識を得る良い機会となりますのでぜひ参加してみて下さい！

リハビリテーション部 理学療法士 小松 ゆい



第15回 日本通所ケア研究大会

デイサービスたの・ショートステイたの 介護福祉士 枝澤 洋平

2016年11月12～13日に広島県福山市で開催された第15回日本通所ケア研究大会に参加させて頂きました。『地域資源の発掘・家族支援・地域支援』をテーマに他施設の発表やセミナーを聴講しました。研修を通して

利用者間や職員とのコミュニケーションをより多く増やし利用者の潜在能力を引き出し、新たな活動や地域の社会資源を活用することでその効果は利用者だけではなく、地域貢献に繋がることを学びました。またランチョンセミナーの『シナプソロジー』の講演では、認知機能低下予防を目的に、介護現場・介護予防・地域の健康作りで活用されるプログラムを体験しました。今回の経験を生かし、利用者の背景にある家族支援やコミュニケーション・理解・信頼関係を築けるよう自立に向けた支援を行なっていきたいと思います。



特集

認知症について

認知症初期集中支援チームの活動開始

診療部長 兼 脳神経外科部長 井川 直樹



しばしば外来で「自分は加齢によるもの忘れなのか、認知症なのか」と質問を受けます。認知症は記憶自体が全体に抜け落ち、思い出すことができません。加齢に伴うもの忘れの場合は一部忘れてても、しばらく考え、ヒントを与えられると、思い出すことができます。最も大きな違いは、認知症の場合は日常生活に支障が出ますが、加齢によるもの忘れの場合は日常生活への支障はありません。例えば、認知症の場合、記憶障害に加えて、作業の段取りや調理、ATM（現金自動受払機）、テレビのリモコン、炊飯器や洗濯機の操作ができないなど。片付けた場所がわからなくなり、物を盗まれたと言う「物盗られ妄想」が見られることがあります。

加齢によるもの忘れから年間約10%程度の割合で認知症へ進行すると言われています。治療は症状の進行を遅らせ、現状維持をさせることが中心となります。進行を遅らせることで、生活がある程度維持できます。例えば、施設入所の時期を遅らせることが可能で、時には入所せず天寿を全うする場合もあります。また、早期診断で本人の判断能力がしっかりしているうちに将来の自分の意志決定や治療方針を確認でき、家族や介護者の心構えができます。

中芸広域連合地域包括支援センターと田野病院とが連携し平成29年度より認知症初期集中支援チームの活動が開始することとなりました。認知症になり困っている人で医療や介護サービスなどに結び付いていない人をなるべく早い段階で解決していくチームです。近隣住人や家族の方で認知症に困っている場合は遠慮なくご連絡ください。また、認知症についてどこに相談したらよいかわからない場合なども気軽にご連絡ください。まずは、地域包括支援センターから相談員が訪問いたします。

連絡先 地域包括支援センター 乾 あき 電話 0887-32-1244
田野病院医療相談室 今井 恵美 電話 0887-38-7111

第35回日本認知症学会学術集会に参加して

外来・中材手術部 看護師 大野 藍

12月1日の最終便の飛行機で東京へ向かい、2日、3日と認知症学術集会へ参加させていただきました。6か所の大きな会場で、最新の認知症遺伝子研究や薬剤の研究、生活支援やBPSDへの対応、認知症をめぐる施策など多くのシンポジウムが同時進行で開催されていました。どれも興味深い内容でしたが、【高齢者のスキンケアと経皮吸収型剤の使用のコツ】

【地域医療と家族支援】【非薬物療法】【認知症外来】【認知症初期集中支援チームの現状】などテーマを絞って聴講してきました。認知症外来を担当して半年、外来看護師として何をすべきか悩む日々でした。短い受診時間だからこそ、しっかりと観察視点をもって本人と家族に関わることが大切です。本人や家族が不安を持ち帰らない外来を目指して、他県や他施設の取り組みを地域に合わせて取り入れていきたいと思います。



認知症サポーター～認知症を支えるまちづくりを目指して～

外来・中材手術部 看護助手 宮地亜希子

“認知症”と言う病気は今では誰もが知っている病気の一つとなっておりますが、それでもまだ理解されていない部分が沢山あります。全国では認知症の方とその家族を応援する“認知症サポーター”を増やす取組みとして“認知症サポーター養成講座”が行われております。認知症の方が日々抱えている不安や行動・心理症状（BPSD）を正しく理解し、認知症の方とその家族を地域で支えていこう！というものです。受講終了後にサポーターの証としてオレンジリングが配られます。当院でも昨年、全職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。

今後は、地域の方が安心・安全に暮らせるよう病院全体でもサポートしていけたらと思っております。

認知症で困っている人や家族を目にすると事がこれからあるかもしれません。そんな時「お困りですか？」と言葉を掛けてあげることで家族は救われた気持ちになります。些細なことですが、そこから寄り添っていけるそんな暖かいまちづくりを目指し、私自身もサポーターの一人として取組んでいけたらと思います。



超音波検査の指導で土居忠文技師が着任されました

臨床検査部 臨床検査技師 松井 理恵

私たち臨床検査部は以前より頸動脈・心臓などのエコー検査を実施していたのですが、業務拡大に伴い、新たに腹部エコーを実施することになりました。しかしながら、指導者がいない独学で学ぶ環境であり、不安を感じていたなか、縁あって運良く超音波指導の機会をいただきました。

指導して下さる土居先生は、以前、高知大学医学部附属病院の検査部に勤務されていた方で、当院では毎週金曜日に、腹部・心臓・甲状腺・頸動脈・下肢血管エコーなどを中心に指導してくださります。指導にあたり、患者様には見学等をさせていただきますので、ご迷惑をおかけ致しますが、ご了承下さいますようお願い致します。



《土居先生より一言》

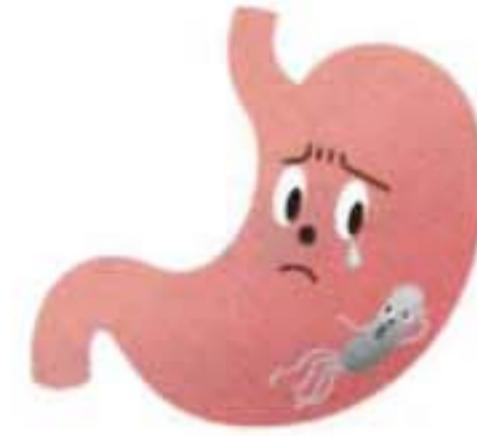
高知県春野町出身で、現在は南国市に住んでいます。趣味は特にありませんが、絵本作家になるのが夢で絵本を1冊出版しましたが6冊しか売れませんでした。今、廃版です。残念。

高知学園短期大学の非常勤講師もしていて、授業で来られない時もありますが、がんばりますの でよろしくお願ひします。

病気のはなし

ピロリ菌について

高知大学医学部 消化器内科学 医員(指導医) 矢野有佳里



近年、新しい治療薬の登場によりC型肝炎が克服できる時代になりましたが、『ピロリ菌』も治る時代になっています。

ピロリ菌感染の何が問題かというと、一番は胃がんのリスクになることです。ピロリ菌の長年の感染により、胃粘膜の萎縮（萎縮性胃炎）が進み、胃がんが発生することが明らかになっています。ピロリ菌のいる人は、いない人と比べると、胃がんになる割合は約10倍とも言われます。しかし、実際に胃がんを発症するのは、ピロリ菌感染者のうちの、多く見積もっても年率0.4~0.5%程度です。除菌の効果は胃粘膜の萎縮が進んでいない若いうちほど大きく、推計では男女とも30代までに除菌をすると、ほぼ100%胃がんにならないとも言われます。ただし、ピロリ菌と関連のない胃がんも1%程度存在します。

2013年2月より、ピロリ菌感染患者の除菌治療が保険適用となりました。『内視鏡検査にて胃炎の確定診断がなされた患者』であることが条件になっています。除菌治療は、胃酸の分泌をおさえる薬と2種類の抗生物質を7日間服用する方法で行います。除菌治療薬服用終了後、4週間後以降に効果判定を行います。判定は、呼気を用いる尿素呼気試験法が一般的です。一次除菌に失敗した場合、お薬を一部替えて二次除菌を行います。二次除菌にも失敗した場合、現在のところ三次除菌以降は保険適用がありません。希望者は自費診療で可能ですが、二次除菌まで失敗した方のピロリ菌は抗生物質への耐性菌が多くなってしまっており、三次除菌以降の成功率はあまり高くないのが現状です。

2015年2月に新しい胃薬ボノプラザン（商品名タケキャブ）が登場し、ボノプラザンを用いた臨床試験では一次除菌で92.6%、二次除菌で98%と、高い成功率が報告されています。

ピロリ菌が治る時代となり、胃がんが予防できる時代となりました。気になる方はぜひ一度、ご相談下さい。

新薬情報

スピオルト レスピマット

薬剤部 主任 齋藤 忠男



今回は12月発売されたスピオルト レスピマットについてご案内します。

肺の生活習慣病とも言われるCOPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を聞いたことはありますか？

COPDは長年の喫煙が原因で起こり、長引く咳や痰、息苦しさなどが主な症状の肺の病気です。日本では40歳以上の8.6%、約530万人の患者さんがいると言われていますが、治療に取り組んでいるのは1割にも満たしません。さらに70歳以上の高齢者では6人に1人の人がCOPDを患っていると考えられています。

COPDになると、どんどん肺胞が破壊され、気管支に炎症を起こします。残念ながら一度破壊された肺は二度と元に戻すことは出来ません。しかし、病気を早く発見して治療を行えば、症状を軽減させCOPDの進行を遅らせることは可能です。

今回ご紹介するスピオルトは吸入するタイプのお薬で、過去に発売され現在も世界中で多く使用されている同じ吸入薬のスピリーバよりも息切れを改善することが示されました。当院でもスピオルトの発売を機にスピリーバからの変更をしております。

現在は未治療の方もこの機会に一度医師にご相談されてはいかがでしょうか？治療することでゴルフや山登り、ウォーキングなどさらに活動的な生活を送ることが出来るようになるかもしれませんよ…。

たのたの 楽楽けんこう隊

～腰痛予防教室～

医事課 病棟クラーク 武田 真紀

9月30日、たのたの温泉で毎月開催されている楽楽けんこう隊の健康教室に参加してきました。その日のテーマは“腰痛予防”でした。

腰痛には原因が特定出来ないものが全体の85%もあるらしいです。

特定できないものの原因として、腰椎前弯タイプと腰椎後弯タイプがあるらしく、タイプ別の運動療法についても教えてもらいました。ストレッチとともに上げとか腰をそらしてみるとか、日常ちょっと体を動かすことで楽になれるそうです。気にして続けてみたいと思いました。

腰痛を起こす心理社会的因子には、仕事に対する満足度・仕事量の他に職場の人間関係やストレスがあるそうで、人間関係ってこんなことにも関係があることに改めて気づきました。



～膝痛予防教室～

リハビリテーション部 理学療法士 岡林 輝親



10月の健康教室は、膝の痛みを予防するための教室を開催しました。膝は歩くとき、足の動きをコントロールする重要な役割を持ちますが、体重を支えるため負担が大きくかかる関節です。歩くとき、膝には体重の約3倍、階段の昇り時には6～8倍の負担がかかると言われているため、体重が増えれば膝への負担は大きくなります。また、膝が外側に開く「O脚」は、日本人の骨格構造上起こりやすい変形で、膝の内側に大きな負担がかかります。

膝痛予防で重要な事は、まず体重減量です。規則正しい時間に適切な量の食事を取り、痛くない範囲で歩きましょう。負担の少ない方法として、膝裏を伸ばすストレッチや、座って膝を伸ばす体操、ボールを両膝の間に挟んでつぶす筋力体操がお勧めです。さらに、たのたの温泉内にあるエアロバイクも膝に負担の少ない運動器具です。温泉の温熱効果は筋肉の緊張も緩和して、痛みを緩和する効果もあります。ぜひ活用してみてください。

～糖尿病～

経営企画部総務課 牛窓 靖

今回で8回目となる健康教室のテーマは、糖尿病を取り上げてみました。前回のアンケートの中で、糖尿病に関しての要望が多くだったので、クリニコさんに講師を依頼し、糖尿病についての基礎知識について講演をして頂きました。

内容は充実していて、参加者にも分かりやすく楽しいものだったと思います。また、後半には、理学療法士の岡林輝親考案による、たのたの体操を参加者全員で行い、転倒予防に役立つと、参加者からも喜ばれました。体操は特に要望が多いので、これからも充実させていきたいと思います。

回を重ねるごとに、少しづつ参加者が増えてきていたのですが、今回は、前回の半分程度にとどまりました。今回の結果を分析して、次回以降の開催に向け、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思います。

参加された方は、当日500円で入浴できるサービス付きなので、ぜひご来場ください。沢山のご来場を、お待ちしております。





田野病院 忘年会 2016



年間接遇
MVP
の方々です!



リハビリテーション部の
『パーカークト・
ヒューマン』



アンコール突入
なんと、タイガーマスク達が乱入!



すばらしい踊りに会場も大盛り上がり



平成28年 医療安全セミナー

通所リハビリテーションたの 介護福祉士 山本 裕香



医療や介護の現場では、少なからず起きてしまうインシデントやアクシデント、出来ることなら自分が関わっている時には、正直起きて欲しくないものです。自身も既に経験してしまった事や、それがあの時なぜ起きてしまったのか?もっと気をつけていればと考えてしまいます。研修の資料に平成26年と27年のインシデント・アクシデント件数がほぼ同数であるとのことでした。意識していても起きてしまうなかで、きちんと記録に残していく、それがほんの小さな事でも情報として伝達されれば意識することになると思いました。インシデントやアクシデントが全くないのは逆に不自然であり、その先に起こりうる重大な事故に繋がらないように、日々意識して利用者様と関わっていきたいと思います。その為にもチームケアである事、一人で判断しない事、自信の持てない状況では周りに助けを求める事、情報伝達の大切さを再確認する機会になりました。

平成28年度 院内感染セミナー

西病棟 看護師 橋本 弘恵

12月、院内感染管理者 白井大介(医師)講師による『平成28年度 院内感染セミナー』が開催されました。

内容は3つの構成に分かれており、

- (1)「標準予防策」では適応と目的、標準予防策の概要、手指衛生のタイミング、防護用具の説明、着用場面、咳エチケット、機材・器具・機器の取り扱いについて
- (2)「薬剤耐性菌対策」では医療現場における重要な耐性菌についての説明と耐性菌を広げないための対策、減少させるためのシステム作りについて
- (3)「手指衛生」では医療従事者の手を介した病原体とその感染経路についての話の後、手指衛生の必要性、手指衛生が必要な5つのタイミング、手指消毒と手洗いの特徴について講義を受けました。

毎年マスク着用の号令と共に今年も菌、ウイルスとの戦いの季節が来たかと気を引き締め直しますが、実際は1年を通して常に感染対策は絶対不可欠。今回の講習で、誰もが安心して入院できる環境を提供するために自身が感染媒体にならない事、そして感染が増えると仕事量も増加します。自分を守る意味でも学んだことを確実に実践していきたいと改めて思いました。



接遇セミナー

回復期リハビリ病棟 介護福祉士 寺尾 理沙



院内接遇セミナーが9月と11月に開催されました。

9月はサービス向上委員である岡林輝親(理学療法士)講師より、全職員へ基本的な接遇の見直しと周知徹底。11月は外部講師の金山久里子先生を再び(前回6月)お招きして、接遇ラウンド&フィードバック研修を実施していただきました。

11月の外部講師を招聘しての接遇ラウンドについては、前回沢山の課題等をご提示頂いていたこともあり、それ以降は前回の反省を踏まえ、法人全体が一丸となって改善に取り組んできました。

その結果、金山先生からは「前回6月に来院したときよりも良くなっていますよ」という評価を頂戴することができ、多少の課題を残しつつも、成果があつたとしました。

また今回開催された2つの接遇セミナーを通じて、自分自身を振り返ったとき、全てにおいて「出来ている」と胸を張れることはないといました。特に言葉遣いに関しては、つい方言を使用してしまい、認知症の患者様に対しては特によく出てしまいます。なぜなら敬語だけでは対応しきれないことが多いと感じてしまうからです。笑顔も疲れると続かなくなってしまいます。これからは、マスク等で表情が分かりにくくなってしまいます。特に声のトーンや口調に注意しながら、病棟の患者様に対し、前向きに入院生活を送って頂けるよう、自身を正していこうと思いました。



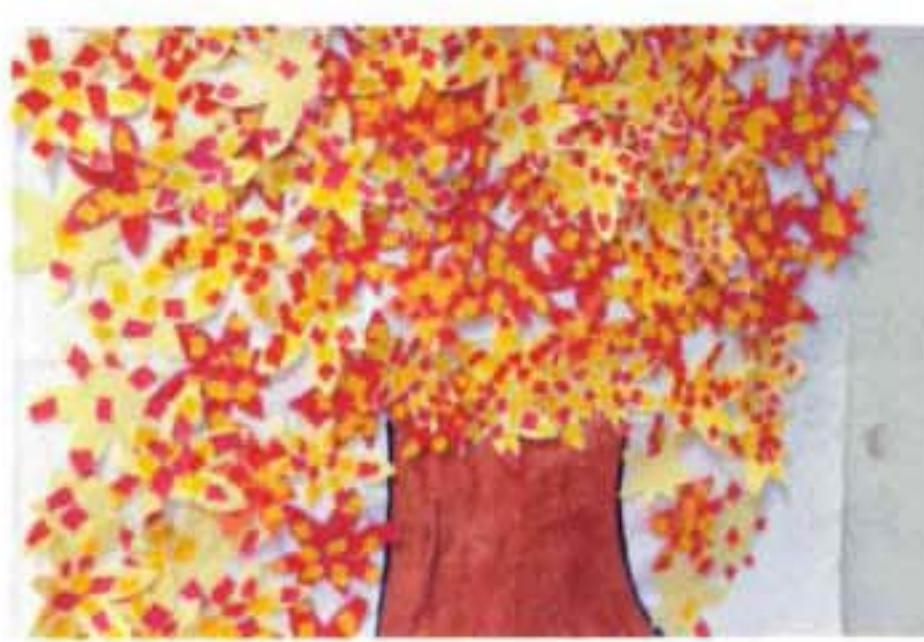
訪問看護と多職種連携について

外来・中材手術部 清岡 和代

11月24日、当院で行われた訪問看護と多職種についての研修会に参加しました。

高知県の医療供給体制の現状は、人口当たりの病床数は全国1位であり、医療従事者として就業している看護師・准看護師は1位、医師も4位と医療資源は豊富にあります。地域医療構想では病床数を削減し在宅医療を推進しようとしています。高知県は介護保険施設等の人口当たりの定員数は全国最下位で、訪問看護STの地域偏在(53施設の内、高知市内に28施設)、訪問看護師不足、小規模STが多く24時間対応が取れていない現状があります。今後、高齢化が進み、独居の高齢者が増え、家庭での介護力の脆弱などの課題は多くあります。訪問看護師は在宅療養者が住み慣れた地域で安心、安全に生活していくために他職種と連携して必要な介護サービス、生活支援サービス、具体的な看護の提供、種々の相談、必要な資源の導入・調整をする必要があります。また、療養者を支える家族も「ケアの対象」として捉え専門職としてパートナーシップを求められます。今回の研修会であらゆる視点をもって療養者・家族を支える訪問看護師の責務は重大と捉えることができました。





介護事業部だより

通所リハビリ....

パンケーキ
作り



じゅく
良い香りが
してきました



フルーツが
いっぱいやね♪



ミニツリー
製作



元職人



Merry
Christmas



どれを
かざろうかな?

デイサービスたの

秋の運動会



フレー
フレー

10月20日

・・・ステキな時間をありがとうございました

絵本セラピストの
もりざね まりこ
森實摩利子さんに
お越し頂きました。



